

---

# 黒点

かめれおん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

黒点

### 【コード】

N5512I

### 【作者名】

かめれおん

### 【あらすじ】

短編小説です。何気ない日常の二コマです。

ガタンガタン・・・  
梅田から阪神電車に乗り家に帰っている。  
今日も無駄な残業をし仕事を終えて、半分深い眠りにつかりながら  
電車の揺れに体を預けていた。  
尼崎に着き、車内へ一人の女が入ってきた。

少し艶のある淡いブルーのスカートから  
白く細い足を出してドアの近くに立った。

私はまぶしい目をして、その女の足を眺めた。

ほくろがある。

ふくらはぎのほくろは

見ていると少しずつ大きくなっているようだった。

やがてほくろが足から剥がれ落ちた。

よく見ると

女の足から血を腹いっぱいに吸った  
季節外れの蚊だった。

蚊はたくさんご馳走をいただき過ぎて  
まん丸と太り

もはや、自分の羽では飛べないようになっていた。

ぴよんぴよんと飛ぶ丸い蚊は

なんとも奇妙なものである。

甲子園に着いた。

蚊はうまい具合に

隣の男の靴に腰掛けて、車両から降りる人々の大きな足から逃れられた。

そして、どこへ向かうのやら

またびよんぴよん飛び、移動し始めた。

気がつくと西宮に着いていた。

まずい -

私は慌てて電車から降りた。

あの

まん丸の蚊はどうなったのだろう。

いま潰れたら

たくさん血が出るのだろうか。

あの綺麗な足の女の血が。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5512i/>

---

黒点

2011年1月8日20時10分発行